

令和 3 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H01834

研究課題名（和文）逐次刊行物データベースを利用したインドシナ3国出版思潮の研究

研究課題名（英文）Basic study about the trend of publication in Indochina by using periodical database

研究代表者

大野 美紀子（ONO, Mikiko）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授

研究者番号：80406701

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：「東南アジア逐次刊行物データベース インドシナ3国版 - 」を構築し、DBに収録されたメタデータを研究ツールとして、当該地域の広域・長期に渉る出版思潮を分析する新たな地域研究手法を追求してきた。この間に、インドシナ3国と日本国内研究協力機関図書館間との学术交流を重ね、3国主要機関図書館からの逐次刊行物資料情報の提供、「東南アジア逐次刊行物DB」技術供与を行うとともに、2019年度ハノイで国際ワークショップを開催し、2020年度「Towards sharing the information resources for area studies in Southeast Asia」2冊を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来ほとんど研究されてこなかった逐次刊行資料群について、資料そのものだけでなく資料情報を用いた地域研究を試み、その前提として、「東南アジア逐次刊行物データベース インドシナ3国版 - 」を核とした日本とベトナム、ラオス、カンボジアのインドシナ3カ国間における情報共有・発信ネットワークを構築・展開してきた。本研究は、これまでなかなか知られてこなかったインドシナ3国主要図書館間と日本国内研究機関図書館において、逐次刊行物の書誌・所蔵情報DBを更新・情報追加してゆく作業を通じて相互連携の場を起ち上げることに一定程度貢献したと言えよう。

研究成果の概要（英文）：This project has pursued a new research method for analyzing wide area and long term publishing trends in Southeast Asia by using metadata in which constructed Southeast Asia Periodical Database. The project promoted academic exchanges between libraries in Japan and three countries of Vietnam, Laos, and Cambodia as exchanges of bibliographical data, technological licensing in database construction, organizing the international workshops, and publishing 2 volumes of research results entitled “Towards sharing the information resources for area studies in Southeast Asia”.

研究分野：地域情報学

キーワード：地域情報化 インドシナ 逐次刊行物 地域研究 出版史 情報図書館学

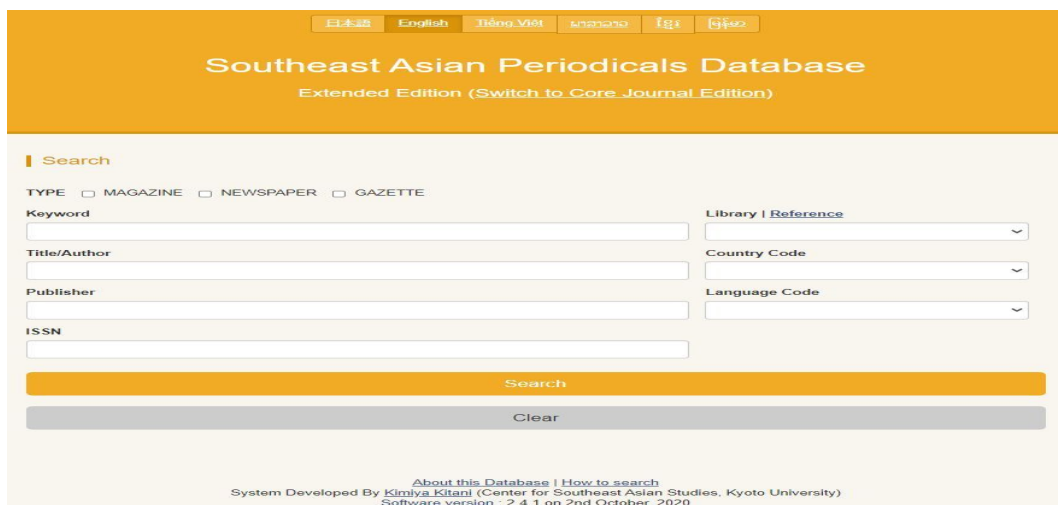
科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

逐次刊行物(雑誌、新聞など継続刊行される出版物の総称)は、短期的な情報伝達を目的として不特定多数に向けて刊行される、時勢を直接に反映するメディアである。その流通量は膨大で社会的影響が大きい一方、その物的特性(紙質・サイズ・量)故に散逸・劣化・廃棄被害を受けやすい。逐次刊行物は、本来は国家図書館や中心的研究機関が網羅的に所蔵し資料情報を整備すべきものであるが、東南アジアでは、多くの場合、これら資料が複数機関に散在するため、資料情報にアクセスすることも難しい。とりわけベトナム、ラオス、カンボジア(インドシナ3国と総称)では、OPACによる自館内所蔵検索システムは整備されつつあるものの、網羅的な文献目録(冊子体・電子データいずれにおいても)が未整備であり、日本の総合目録データベース(CiNii Books、NDLSearchなど、以下DBと略記)に相当する横断的検索システムも持っていない。

逐次刊行物は地域研究の重要な一次資料であるが、これらの資料をめぐる状況が研究を進めていく上の顕著な障害となっている。この問題を解決するため、京都大学東南アジア研究所(東南研)では、平成18年以降、同学地域研究統合情報センターをはじめ、国内外の東南アジア研究拠点の地域研究者、図書館員、情報技術者が連携して、逐次刊行物資料情報を整備するためのプロジェクトを推進してきた。科研「インドシナ3国逐次刊行物データベースによる機関横断型ネットワーク構築の研究」(基盤研究(C)、平成26~28年)では、国内所蔵の資料情報を整備し、ベトナム・ラオスから提供された資料情報を統合した「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース:インドシナ3国版(<https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib/>)」を開発・公開した(図1参照)。現在、上記DBの各国図書機関への実装支援を通じた、機関横断型資料共有ネットワークの構築を進めている。本研究プロジェクトでは、このDBプラットフォームが実用軌道に乗ったことを受けて、DBに収録されている逐次刊行物資料情報(書誌・所蔵情報)を利用した新たな地域研究手法創出を構想したものである。

図1. 東南アジア逐次刊行物データベースインドシナ版



2. 研究の目的

本研究の目的は、「東南アジア逐次刊行物総合目録データベース:インドシナ3国版」の整備と情報追加を行い網羅性の向上を図ると同時に、収録されている逐次刊行物の資料情報(書誌・所蔵情報)を利用した、地域研究における新たな研究展開を図ることにある。具体的には、当該データベースに収録されている資料情報を手がかりに、インドシナ3国の近現代社会史研究において重要な「出版思潮」(及びこれにまつわる制度・技術)について、Bibliometricsとデータマッピング手法により導出される数量的なエビデンスの裏付けの元に明らかにする。また、その過程で編み出される研究手法を精練させ、逐次刊行物資料情報の地域研究への応用に係る新たな方法論の提言に繋げることにある。

3. 研究の方法

逐次刊行物は、本来は国家図書館や中心的研究機関が網羅的に所蔵し資料情報を整備すべきものであるが、東南アジアでは、多くの場合、これら資料が複数機関に散在するため、資料情報にアクセスすることも難しい。本研究期間2017-2020年度の4年間に推進してきた内容は、逐次刊行物資料及びその資料情報収集、それら資料情報の整備とDB収録、長期的に資料情報整備を持続していくために日本及びインドシナ3国における資料整備用図書館向け実践型研修とDB技術供与、ベトナム、ラオス、カンボジアのインドシナ3国の国立図書館・主要研究機関図書館における資料整備状況の調査である。進捗過程において、地域研究者、図書館員、情報技術者が連携して、当該地域側図書館と協力してきた。

4. 研究成果

本研究期間中の研究経緯とその成果について、計画調書に挙げた項目に沿って概括する。

「東南アジア逐次刊行物総合目録 DB：インドシナ3国版」の網羅的資料情報の整備

京都大学東南アジア地域研究研究所（以下、東南研）において国内外の東南アジア研究拠点の地域研究者、図書館員、情報技術者が連携して2006年以降収集してきた「東南アジア逐次刊行物 DB」は、2016年国内所蔵の資料情報を整備し、ベトナム・ラオスから提供された資料情報を統合しインドシナ3国版(<https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib/>)を開発・公開した。本研究機関中に、ベトナム・ラオス・カンボジア研究協力機関図書館からデータ提供を受けて、その収録データを追加し資料情報の整備を進めた。

収録数とアクセス件数は下記のように推移している。

2016年度

目録収録数：2,796点

書誌所蔵数：5,959件

総利用件数：4,781

2017年度

目録収録数：2,796点

書誌所蔵数：5,959件

蓄積量：8,755（目録収録数＋書誌所蔵数）

総利用件数：1,941

2018年度

目録収録数：2,707点

書誌所蔵数：5,345件

蓄積量：8,052（目録収録数＋書誌所蔵数）

総利用件数：3,105

*重複データ削除による収録数減少

2019年度

目録収録数：3,196点

書誌所蔵数：5,663件

蓄積量：8,859（目録収録数＋書誌所蔵数）

総利用件数：3,346

2020年度（2021年1月末時点）*

目録収録数：3,196点

書誌所蔵数：5,663件

蓄積量：8,859（目録収録数＋書誌所蔵数）

総利用件数：3,234

*新型コロナウイルスの影響により資料整備が遅延

ベトナムでは、社会科学通信院が同時期に並行して進めていたベトナム資料情報の world cat 公開を目的としたベトナム社会科学アカデミー傘下33図書館横断型DBが2019年に完成し、そこから資料情報の提供を受けた。また、ラオスではラオス国立図書館及びラオス国立大学中央図書館、カンボジアではカンボジア国立図書館、同国立文書館及び王立プノンペン大学フンセン図書館から現物資料寄贈及び資料情報の提供を受けた。

逐次刊行物資料情報を利用した Bibliometrics とデータマッピング手法によるインドシナ3国の出版思潮研究

本研究の最終目的は、図書館DBの資料情報、すなわちメタデータについて、単なる対象資料へのアクセスツールから研究対象へと価値転換を図り、網羅的な逐次刊行物の資料情報そのものを利用して、これらの情報を計量化・マッピングを通して比較分析することにより、出版（およびこれに纏わる制度と技術）を着眼点としたインドシナ3国全域の社会・文化現象、そこに通底する時代思潮について、国別研究の枠を超えた広域・通時的な社会史を考察することにあつた。そのためには、資料情報に含まれる書誌情報（書名、編著者名、出版地・者・年、出版形態、主題、等）と所蔵情報（所蔵館、所蔵年）が整備されている必要がある。しかしながら、対象3カ国各図書館から提供された資料情報の書誌情報に欠落が多いことが判明し、提供された資料情報を日本国内において現物資料と照合するなど整備する困難に直面した。3カ国から提供された多くのデータが図書・逐次刊行物（雑誌）のタイプを区別しておらず、逐次刊行物資料に対する認識が曖昧で、資料管理が極めて緩い状態にあつた。その背景には、当該3カ国における図書館DB開発が近年であり、OPAC公開が最も発展していたベトナムにおいてもベトナム社会科学アカデミー傘下図書館による遡及事業の目途がついたのが2019年、ラオスでは国立図書館OPACへの図書登録作業中、カンボジア国立図書館に至っては着手しかけなど、国内インフラ整備の遅れが図書館DB構築の進捗状況を左右する結果となつていた。当該3カ国いずれも教育省管轄下の大学・研究機関図書館の図書館DB構築が、文化省管轄国立図書館より先行していた。本研究では、資料情報共有の必要性を共通認識とし、Marc21水準書誌コントロールを研修することで、長期に渉り将来的に持続的資料情報の提供を受けるため、日本及び当該3カ国間の学術情報基盤環境に係る国際シンポジウム及び3つの実践型ワークショップ（書誌コントロール・DB操作構築・紙資料保存技術）を2019年9月17-18日ハノイのベトナム人文社会科学アカデミーで開催した。同アカデミー傘下32図書館・室をはじめとするベトナム、ラオスとカンボジアの国立

図書館・主要研究機関及び大学図書館関係者、またベトナム文化通信省、図書館協会会長ほかに参加し、シンポで120名以上、WSで各70名と延べ人数300人以上、4か国45機関・組織に及んだ。すなわち、本研究期間中において資料情報を用いた出版思潮分析に至るまでに困難なじょうきょうにあることから、爾後の持続的長期的資料情報交換を意図し、図書館間交流及び司書研修へと転換し、今後の研究発展に期することとした。また、本研究成果報告として、インドシナ3国及び日本における当該地域学術情報基盤環境の現状について、2019年9月ベトナム・ハノイで開催した国際ワークショップ報告を元に、同WS参加者から寄せられた原稿を編集した“Monograph: Towards sharing the information resources for area studies in Southeast Asia”（英・ベトナム語併記）を社会科学出版社から刊行した（2020年12月刊行）。また、同タイトルPt.2（英語版）としてワークショップ報告を編集し、日ASEAN超学際研究プロジェクトワーキングペーパーシリーズNo.11として京都大学リポジトリに公開した（2021年3月公開）。

逐次刊行物資料情報の地域研究への応用に係る方法論研究

既存の図書館情報学は、メタデータと総称される書誌情報を他の研究分野に応用することを想定していないが、逐次刊行物資料群の特性（継続性・流通量）及び書誌情報が収録する豊富なデータ項目に鑑みると、これらをビッグデータとして他（多）分野の研究に応用することは十分に可能であると思われる。本研究では、上記の状況下において図書館DBに集積される資料情報を、人文社会科学とりわけ地域研究へ利用するための方法論を検討・提案するには残念ながら至っていない。その背景として、直接的には上記に挙げた各国内図書館における書誌コントロール技術の相違がある。また、3か国における逐次刊行物資料出版が19世紀中葉以降フランス植民地期以後に発展したことから、出版者がベトナム・ハノイ及びサイゴンに集中していたこと、図書館における逐次刊行物資料の収集・保存状況が、とりわけラオス・カンボジアにおいて予想以上に悪かったことが挙げられる。これらに鑑み、長期的かつ持続的に保存される資料を対象とした資料（モノ）とその担い手（ヒト）の係性をマクロに分析すべく、寺院所蔵宗教資料に注目し、本研究期間中に新たに派生した研究プロジェクトとして、東南研が保管する漢喃經典等資料のマテリアルサーベイによる越僑コミュニティ史考察がスタートしている。

今後の研究方向

ほとんど研究されてこなかった逐次刊行資料群について、資料そのものだけでなく資料情報を用いた地域研究を試みた。その前提として、当該諸国間における情報共有・発信ネットワークを構築・展開する。インドシナ3国逐次刊行物の書誌・所蔵情報DBを更新・情報追加してゆく作業を通じて、組織的・地理的に離れている地域研究者・図書館員と情報技術者による当該DBを核とした相互連携の場が起ち上り、多言語資料情報共有化システムが東南アジア各国、ひいては全世界に展開してゆくことに貢献したと言えよう。

本研究は、この4年間の研究進展経過に応じて、「東南アジア逐次刊行物DB」開発と出版物資料情報メタデータを利用した出版思潮研究の2つの方向性へ分岐し、それぞれが今後の研究発展を指向している。

「東南アジア逐次刊行物DB」開発

本研究期間中に、当該DBについて大きな方針転換を行った。東南アジア地域における逐次刊行物出版情報をより網羅的かつ広域に収録するため、国内外機関所蔵資料を対象とした資料情報の収録をやめ、ウェブサイト情報を含む書誌情報のみを対象とする文献目録DBを目指すことにデータ収集方針を変更した。現在ビルマ語・カレン語等東南アジア大陸部少数民族言語版へ拡大・発展を指向し、科研基盤(C)木谷公哉代表「東南アジア大陸部少数民族は言語文化アイデンティティをどのように維持発信しているか」で研究継続中である。

出版物資料情報メタデータを利用した出版思潮研究

DB収録のメタデータ活用からオリジナル資料活用へと調査対象を転換し、華人出版者が刊行した華字紙とベトナム仏教寺院が所蔵する經典等資料を利用し、20世紀東・東南アジアにおける越僑コミュニティ成立史をドキュメント収録の出版者情報分析によって跡付けるドキュメント&フィールドベース研究へと進みつつある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 笹川秀夫	4. 巻 改訂版
2. 論文標題 カンボジア：内戦の傷跡、復興の明暗	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田村慶子、横山豪志編『東南アジア現代政治入門 [改訂版]』	6. 最初と最後の頁 185-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池陽子	4. 巻 24
2. 論文標題 「日本軍のルアンパバーン進駐」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 100-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢野正隆	4. 巻 70(1)
2. 論文標題 資料保存	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 275-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内房司	4. 巻 23
2. 論文標題 清代民衆宗教に見る宗教的回心の諸相：安丸良夫の民衆宗教研究に寄せて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア民衆史研究	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内房司	4. 巻 67
2. 論文標題 阮朝アーカイブズの世界：フランス・ギメ美術館図書館蔵阮朝地方行政文書を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学習院大学東洋文化研究所調査研究報告	6. 最初と最後の頁 191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大泉さやか	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 ベトナムにおける無形文化遺産としての聖母信仰の保護と管理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 148-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮沢千尋	4. 巻 16
2. 論文標題 東アジア女性の伝統的財産権の比較研究に関する論点整理と展望 - 中国とベトナム -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アカデミア	6. 最初と最後の頁 93-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小島浩之・矢野正隆	4. 巻 8
2. 論文標題 漢字・字喃經典料紙調査概要：東南アジア地域文献の史料論的研究序説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学経済学部資料室年報	6. 最初と最後の頁 69-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小島浩之	4. 巻 17
2. 論文標題 デジタルアーカイブの発信と受益の狭間	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笹川秀夫	4. 巻 31
2. 論文標題 近代仏教の時代のすれちがい：戦前、戦中の日本で刊行された仏教雑誌、書籍にみるカンボジア関連記事	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 61-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹川秀夫	4. 巻 17(2)
2. 論文標題 書評 - 下條尚志、『戦争と難民 メコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 287-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野正隆	4. 巻 17
2. 論文標題 「デジタル化」とメディアの「保存」：媒体変換における原資料の意味	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野美紀子	4. 巻 27
2. 論文標題 書評『ベトナム・アーカイブズの成立と展開：阮朝期、フランス植民地期、そして1945年から現在まで』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 記録と史料	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小島浩之、矢野正隆
2. 発表標題 学術著作物に関する著作権契約の実態と問題点：原著作者の立場から
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会第21回大会(大阪・関西大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小島浩之
2. 発表標題 紙の発生と伝播について
3. 学会等名 2018年度愛知県立大学公開講座「紙の道の文化史：正倉院からサマルカンドまで」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島浩之
2. 発表標題 アジアの紙を俯瞰する：情報伝達基盤のグローバリゼーション
3. 学会等名 アジアンライブラリーカフェno.004 (文字を支える書字材料：パピルス・羊皮紙・紙・活版印刷) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢野正隆
2. 発表標題 「デジタル化」再考：媒体変換の前と後
3. 学会等名 シンポジウム「教育・研究資源としてのデジタルアーカイブ：その管理・活用・保存」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮沢千尋
2. 発表標題 歴史人類学から見た老親の扶養－「養老」を中心に－
3. 学会等名 東南アジア学会中部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko KIKUCHI
2. 発表標題 Japanese occupation as described in the official history of Laos and Laotian memories
3. 学会等名 SEASIA (Consortium For Southeast Asian Studies In Asia)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊池陽子
2. 発表標題 東南アジア大陸部文字資料のメタデータ共有化に係る基礎研究
3. 学会等名 「東南アジア研究の国際共同研究拠点」年次研究成果発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笹川秀夫
2. 発表標題 近代仏教の時代のすれちがい：戦前、戦中の日本で刊行された仏教雑誌、仏教関連書籍にみるカンボジア関連記事
3. 学会等名 第11回日本カンボジア研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 笹川秀夫
2. 発表標題 近代仏教の時代のすれちがい：戦前、戦中の日本で刊行された仏教雑誌、仏教関連書籍にみるカンボジア関連記事
3. 学会等名 仏教文化セミナー「東南アジアと日本の仏教交流(1)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 矢野正隆
2. 発表標題 「デジタル化」とメディアの「保存」：媒体変換における原資料の意味
3. 学会等名 第20回漢字文献情報処理研究会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 菊池陽子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 早稲田大学リポジトリ	5. 総ページ数 401
3. 書名 アジア太平洋戦争期の大陸部東南アジアに関する“朝日新聞”(東京本社)記事リスト一覧	

1. 著者名 代田智明監修・谷垣真理子、伊藤徳也、岩月純一編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 448
3. 書名 戦後日本の中国研究と中国認識：東大駒場と内外の視点	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>シンポジウム「教育・研究資源としてのデジタルアーカイブ：その管理・活用・保存」 http://jaet.sakura.ne.jp/ 漢字文献情報処理研究会第21回大会 http://jaet.sakura.ne.jp/ 逐次刊行物データベース：インドシナ3国版 https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib-dev/ 東南アジア逐次刊行物総合目録データベース：インドシナ3国版 https://info.cseas.kyoto-u.ac.jp/db/sealib-dev/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	笹川 秀夫 (SASAGAWA Hideo) (10435175)	立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授 (37503)	
研究分担者	宮沢 千尋 (MIYAZAWA Chihiro) (20319289)	南山大学・人文学部・教授 (33917)	
研究分担者	武内 房司 (TAKEUCHI Fusaji) (30179618)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木谷 公哉 (KITANI Kimiya) (50324687)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教 (14301)	
研究分担者	菊池 陽子 (KIKUCHI Yoko) (60334447)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	小島 浩之 (KOJIMA Hiroyuki) (70334224)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・講師 (12601)	
研究分担者	岩月 純一 (IWATSUKI Junichi) (80313162)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	矢野正隆 (YANO Masataka)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・助教 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International conference : collaborative practice for establishing a base of academic information between Japan and three countries in Indochian	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------